



小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
人と動物のたんじょう / 理解シート

種類がちがうハムスターの両親から、子どもは生まれるの



ハムスターのなかまどうしなら、種類がちがっても子どもは生まれるよ。両親の特ちょうが混じった雑種まざっしゅになるのさ。

生き物は、同じなかまか、近いなかまどうしでない、子孫はできない

ヘチマに別の花であるチューリップの花粉をつけても、実はなりません。でも、同じナシのなかまどうしなら、種類がちがっても花粉をつけると、たいてい実がなります。今までにないナシの実をつくりたいときなどに、この方法をよく使います。

ハムスターは、動物のなかま分けでは、ほにゅうどうぶつ乳動物の中の「げっ歯類」というグループの、ネズミのなかまに入ります。ネズミのなかまも、さらにハムスターのグループ、ドブネズミやカヤネズミのグループ、ヤマネのグループなどに分けられます。

ハムスターどうしなら、種類がちがっても同じハムスターというなかまなので、子どもは生まれます。

子どもが生まれるかどうかで、近いなかまかどうか分かる

ネコに近いグループには、ライオン、トラ、ヒョウ、ネコなどのグループがあります。ふつうは、ライオンとヒョウの間では、同じなかまではないので子どもは生まれません。

40年ほど前、関西の動物園で、ライオン(母)とヒョウ(父)の子どもを、人工的に生ませることに成功しました。ライオンとヒョウの特ちょうをもつ子どもは、レオポンとよばれてひょうばん評判になりました。けれど、レオポンに赤ちゃんはできませんでした。

ネコなど同じなかまどうしなら、種類がちがっても、両方の親の性質せいしつをもった雑種の子子どもが生まれます。ハムスターも、人間がいろいろな親の組み合わせを研究して、新しい品種をつぎつぎとつくり出しています。

